

**2022年度 事業計画書**  
**(2022年4月1日～2023年3月31日)**

**公益財団法人 アサヒグループ芸術文化財団**

## 2022年度 事業計画書

芸術文化活動に対して助成支援を行うとともに、アサヒビール大山崎山荘美術館の運営の文化事業を行う。

助成にあたっては、前年まで実施していた公募型助成の公募を一旦休止とするが、前年からの延期企画に対する助成を行う。

アサヒビール大山崎山荘美術館は、常設展・企画展・地域貢献活動・教育普及活動等を通して、楽しい生活文化の創造を提案し続ける。

### 主たる事業の計画

#### 1. 芸術文化活動への助成

##### 1) 延期企画への助成

昨年まで実施していた公募型助成については、今般の社会情勢を鑑み事業の安定的な継続が困難であるため本年度の公募を一旦休止とする。

なお、2020年度、2021年度に助成予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大等の影響により延期になった企画があるため、当該企画に対する助成支出を行う。

##### 2) 「日本伝統工芸展」をはじめとする日本工芸会の活動への助成

伝統工芸の技術の保存と活用、伝統文化向上に寄与する目的で開催されており2008年から助成をしている。

具体的には、第69回日本伝統工芸展「日本工芸会奨励賞」の副賞として、並びに「日本伝統工芸展」を中心とする公益目的事業の活動費として、50万円の助成を実施する計画である。

助成を通じて得られた知見や、主催者である公益社団法人日本工芸会との人脈を、アサヒビール大山崎山荘美術館の運営に活かしている。

#### 2. アサヒビール大山崎山荘美術館の運営

アサヒビール大山崎山荘美術館は、常設展・企画展・地域貢献活動・教育普及活動等を通して、楽しい生活文化の創造を提案し続ける。

運営にあたっては、以下5つの施策を柱とする。

## 1) 展示:

当館の資産である所蔵品コレクションを最大限活用しながら、テーマ性・ストーリーを持った常設展・企画展を実施する。(企画展は年3回実施)

### 【2022年度展覧会概要】

#### ① 「コレクション 春 —所蔵作品による名品展」

2022年3月19日(土)～7月3日(日)

アサヒビール大山崎山荘美術館は、1996年春に開館した。所蔵品の中核を成すのが、クロード・モネ《睡蓮》をはじめとする西洋近代絵画と、開館に際して寄贈された、朝日麦酒株式会社(現アサヒビール株式会社)初代社長・山本爲三郎による民藝運動ゆかりのコレクションである。

本展では、およそ1000件の所蔵品から選出した多彩な作家たちとその作品を全館で紹介する。地中館では、モネ《睡蓮》をはじめ、ポール・シニャック《ヴェネツィア》など水の情景を特集し、「地中の宝石箱」の名にふさわしい小さくも見ごたえのある空間で来館者を迎える。山手館は、ワシリー・カンディンスキー、パウル・クレーをはじめ印象派以降の主要な芸術運動に関わった作家を、本館では、生誕135年のバーナード・リーチと同じく120年のルーシー・リー、英国陶芸を代表する二人の作品をその関係性からひも解く。

美術館の庭園に花々が咲き誇る春から、池が睡蓮で満ちる初夏のころ、遺された貴重な建築物や美しい風景とともに、コレクションから珠玉の逸品を堪能していただく展覧会構成とする。

#### ② 「こわくて、たのしいスイスの絵本」

2022年9月17日(土)～12月25日(日)

アサヒビール大山崎山荘美術館の本館である「大山崎山荘」を建てた加賀正太郎は、スイスの名峰ユングフラウに登頂した初めての日本人として山岳史に名をのこした。

本展は、昔日の大山崎山荘の主人加賀正太郎とスイスの交流を記念して、小さな絵本美術館(長野県)協力のもとに開催する、スイス文化が息づく絵本の展覧会である。

アルプスの草花を擬人化した『花のメルヘン』をはじめ、数々の絵本を手がけたエルンスト・クライドルフ(1863-1956)、勢いのある線を重ねて絵を描き、『ブレーメンの音楽隊』などを発表して人気を博したハンス・フィッシャー(1909-1958)、『おおかみと七ひきのこやぎ』が日本でも長く愛されているフェリックス・ホフマン(1911-1975)らの作品を取り上げる。草花や風俗、地方の伝説などを通じ、スイスらしさをそれぞれに表現した彼ら手がけた絵本や挿絵には、楽しそうに見えてもじつはこわい場面や、こわそうに見えても楽しい場面が描かれている。

「すこしこわいけれど、楽しいスイス絵本の世界」をテーマに、原画やリトグラフをはじめ、手描き絵本も含めた約70点を紹介予定。

③ 没後 40 年 黒田辰秋展 ―山本爲三郎コレクションより

2023 年 1 月 21 日（土）～ 2023 年 5 月

京都を拠点に活躍した木漆工芸家・黒田辰秋(1904-1982)の没後 40 年に際し、民藝運動と黒田の制作活動を支えた朝日麦酒株式会社（現アサヒビール株式会社）初代社長・山本爲三郎によるコレクションを中心に紹介する展覧会。

京都の塗師屋に生まれた黒田辰秋は、早くから木漆工芸の制作過程における分業制に疑問を抱き、一人で素地から塗りや加飾、仕上げに至るまでを行う工芸作家を志していた。

独学で修業をしていたが、1924 年の河井寛次郎との出会いをきっかけに、柳宗悦らの知遇を得て民藝運動の草創に関わり、その経験を元に一貫制作による独自の表現を実現させてゆく。

本展では柳らに出会った頃の初期作品から、山本の支援で民藝同人たちの制作発表の場ともなった「民藝館」、のちの「三國荘」のために作られた家具や照明器具、暮らしの道具類、さらに熟達した技術によって独自の意匠を追求した後年の作品までを紹介する。黒田が強く影響を受けた河井や富本憲吉をはじめ、黎明期とともに過ごした青田五良、そして民藝運動を推進した濱田庄司やバーナード・リーチらの作品も併せて展示する。

2) 保管：

山本爲三郎コレクション、アサヒビール所有コレクションを中心とした当館所蔵品を公共の財産として未来につないでいく。

3) 調査・研究：

民藝運動ゆかりの作品等の当館所蔵品の調査研究をさらに進める。

4) 地域貢献：

- ・地域社会の創造性を高める拠点として、特に京都乙訓地区の児童の教育普及活動を行う。
- ・地域活性のプラットフォームとしての役割を果たす。地域の国宝・文化財施設、および京都府とのネットワークを強化し、観光客誘引の中心的役割を果たす。

5) リスクマネジメント：

新型コロナウイルス感染防止対策の徹底。自然・人為災害、業務妨害に対する対応策の総点検と訓練を実施する。

【活動のポイント】

○接遇クオリティの向上

受付・喫茶・館内案内・送迎サービス・問い合わせ対応等、接遇のクオリティを向上させる。

○施設整備

お客様の安心・安全、所蔵品の保存、お客様の満足度向上のための施設整備を行う。

○存在感を訴求する情報発信

マスコミ・京都府・大山崎町との関係づくり・連携を強化すると共に、デジタル広報を強化し情報発信力を向上させる。  
アサヒグループ本社と連携し、新たな価値創造・発信を検討する。

## 主たる事業の予定

2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)

年	月	日	項目	摘要
2022	3	19	大山崎山荘美術館企画展	・「コレクション 春 —所蔵作品による名品展」(～7月3日)
	4	下旬	日本工芸会への助成	
	6	上旬	理事会	・2021年度事業報告、計算書類等承認の件
	6	下旬	定時評議員会	・2021年度事業報告の報告、計算書類等承認の件
	9	17	大山崎山荘美術館企画展	・「こわくて、たのしいスイスの絵本」(～12月25日)
2023	1	21	大山崎山荘美術館企画展	・没後40年 黒田辰秋展 —山本爲三郎コレクションより (～5月)
	3	上旬	理事会	・2023年度事業計画・収支予算の承認の件

以上